

新潟県で初めて採集されたヒラテテナガエビの記録

清水哉多・石澤佑紀・石川訓子

新潟市水族館マリンピア 日本海, 新潟県新潟市中央区西船見町 5932-445(〒951-8555)

The First Record of *Macrobrachium japonicum* Collected in Niigata Prefecture

Kanata SHIMIZU, Yuki ISHIZAWA and Noriko ISHIKAWA

Niigata City Aquarium Marinepia Nihonkai, 5932-445 Nishifunamicho, Chuo-ku, Niigata City, Niigata Prefecture, 951-8555, Japan

Abstract

Macrobrachium japonicum De Haan, 1849 is a species of palaemonid shrimp distributed from the Nansei Islands to central Honshu, Japan. On the Sea of Japan side, the easternmost record of this species has been reported from Ishikawa Prefecture, and no occurrence has previously been documented from Niigata Prefecture. During surveys of atyid and palaemonid shrimps conducted on 10 June and 9 July 2025 in rivers on Sado Island, Niigata Prefecture, several individuals apparently belonging to this species were collected. At the time of collection, the specimens were small (approximately 2 cm in total length), and definitive identification based on morphological characters was not possible. The individuals were therefore reared until diagnostic characteristics became evident. In October 2025, two specimens were confirmed as *M. japonicum*. One specimen was anesthetized on ice, preserved in 70% ethanol, and deposited as a wet specimen in the Niigata City Aquarium. These specimens represent the easternmost record of *M. japonicum* along the Sea of Japan coast and constitute the first record of this species from Niigata Prefecture. The present study reports this new distributional record based on the deposited specimen.

はじめに

ヒラテテナガエビ *Macrobrachium japonicum* De Haan, 1849 は、南西諸島から本州中部以南に生息するテナガエビ科テナガエビ属の一種である(豊田ら, 2014)。日本海側における東限記録は石川県とされており(丸山, 2017)、新潟県のテナガエビ属の記録はテナガエビ *Macrobrachium nipponense* のみで、本種はこれまで報告されていない(林, 1976; 新潟県, 2001; 丸山, 2016)。

筆者らは 2025 年 6 月 10 日および 7 月 9 日に新潟県佐渡市内の河川でヌマエビ類の採集を行った際、本種と思われる個体を採集した。採集時の全長は約 2 cm の小型個体だったため確実な同定ができなかったが、その後、形態的特徴が明瞭になるまで飼育を行い、2025 年 10 月に 2 個体をヒラテテナガエビと同定した。このうち 1 個体は氷冷麻酔後、70%エタノールで固定し、液浸標本として新潟市水族館に収蔵した。

今回得られた個体は、日本海側における東限記録および新潟県での初記録となるため、標本に基づきこ

に報告する。

材料と方法

2025 年 6 月 10 日、7 月 9 日に新潟県佐渡市(図 1)にある 3 河川(真野川、小川内川、西三川川)で、D 型フレームネット(網目 3mm) を用いて生物採集を行った。採集したヌマエビ類の中に本種が含まれており、飼育後、成長に伴って形態的特徴が明瞭となったため、2 個体をヒラテテナガエビと同定した。該当個体のうち 1 個体を氷冷麻酔後(図 2, 図 3)、70% エタノールに固定し、液浸標本として保存した(図 4)。標本は新潟市水族館にて保管している。計測は頭胸甲長、額角歯式を計測した。計測にはデジタルノギス(Mitutoyo 製 CD- S20M: 500- 405) を用い、0.1mm 単位で計測した。頭胸甲長は眼窩後縁から頭胸甲後端までとした。また、額角歯式は「頭胸甲上+額角上縁/額角下縁」と表した。

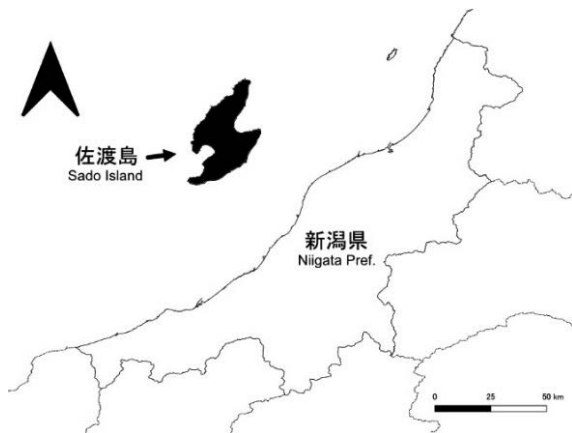


図 1 調査地(佐渡島)

結果

記載

ヒラテテナガエビ *Macrobrachium japonicum*
頭胸甲長: 11.8mm、額角歯式: 3+8/3、額角の長さは第 1 触角柄部第 3 節の先端付近であること、頭胸部には黒い点線状の縦帯が見られる、第 3 腹節後縁に暗色帯があるなどの特徴により本種と同定した(吉郷, 2002, 豊田, 2014)。

備考

本個体は 3 河川分(真野川、小川内川、西三川川) のヌマエビ類をまとめた水槽の中から発見したため、詳細な採集場所については不明である。



図 2 ヒラテテナガエビ(側面)

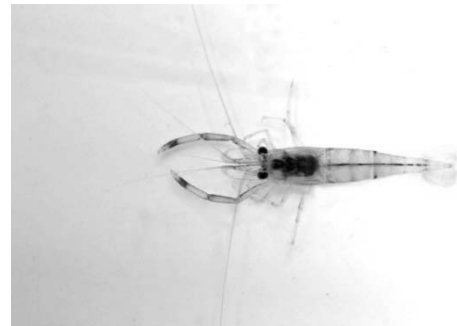


図 3 ヒラテテナガエビ(背面)

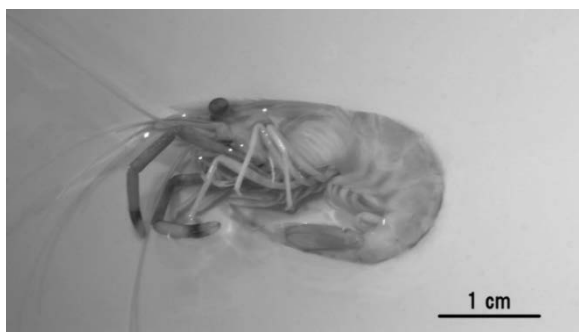


図4 ヒラテテナガエビ(エタノール固定後)

考察

両側回遊性を示すテナガエビ類は、一部の種を除きゾエア幼生期に海中での浮遊生活があり、海流によって広域に分散することが知られている(浜野ら, 2005)。本種も同様に日本海を流れる対馬海流によって偶発的に流され、佐渡島へ到達したと考えられる。実際、2022年には同じ生活様式をもつヒメヌマエビが山川ら(2022)によって採集されているほか筆者も2025年10月にミナミテナガエビを新潟県内で初めて確認している(清水, 2026)。これらの事例に加え、近年の日本近海における海水温上昇(気象庁, 2025)を踏まえると、両側回遊性エビ類が北上傾向にある可能性が高いことが示唆される。そのため、新潟県が本種にとって安定的な生息地となり得るか今後も注視していく必要がある。また、本個体の詳細な採集地点に関しては不明であることから今後も調査を行い、本種の生息域や定着状況などの把握を行う必要がある。

引用文献

- 浜野龍夫・井手口佳子・中田和義, 2005. 山口県西田川における両側回遊性エビ類の幼生の流下と稚エビの加入. 水産増殖, **53**(4): 439–446.
- 林健一, 1976. 佐渡臨海実験所近海のエビ類相. 新潟県生物教育研究会誌, **11**: 18.
- 気象庁. 2025. 海面水温の長期変化傾向(日本近海).
<https://www.data.jma.go.jp/gmd/kaiyou/data/shindan/a_1/japan_warm/japan_warm.html> 2025年12月12日アクセス.
- 丸山智朗, 2016. 本州日本海側における両側回遊性コエビ類の分布について. *Cancer*, **25**: 55–60.
- 丸山智朗, 2017. 越前・能登・佐渡の河川で採集されたコエビ類. *Cancer*, **26**: 35–42.
- 新潟県, 2001. レッドデータブックにいがた. 98p., 新潟県環境生活部 環境企画課, 新潟
- 清水哉多, 2026. 新潟県で初めて採集されたミナミテナガエビの記録. のと海洋ふれあいセンター, **31**:51–53.
- 豊田幸詞・関 慎太郎, 2014. 日本の淡水性エビ・カニ. 76–77. 株式会社 誠文堂新光社, 東京.
- 山川宇宙・鎗田めぐ, 2023. 新潟県佐渡島で採集された北限記録のヒメヌマエビ. ニッチェライフ, **11**: 6–8.
- 吉郷英範, 2002. 日本のテナガエビ属(甲殻類: 十脚類: テナガエビ科), 比婆科学, **206**: 1–8.

